

令和6年度公共事業 再評価諮問箇所個別資料

道路課 道路事業 6件

1 公共事業再評価諮問箇所一覧表、B/C の考え方

P1～

2 個別事業箇所資料

- ・ 公共事業再評価諮問箇所「継続」理由書等
- ・ 再評価対象事業箇所調書
- ・ 個別箇所説明資料

- ① 道路事業（川棚有田線（大野・桑古場））
P4～
- ② 道路事業（梅野有田線（今山））
P11～
- ③ 道路事業（加倉仮屋港線（枝去木・有浦上））
P19～
- ④ 道路事業（肥前呼子線（梨川内））
P28～
- ⑤ 道路事業（唐津北波多線（唐津））
P37～
- ⑥ 道路事業（前原富士線（上無津呂））
P46～

令和6年度公共事業再評価諮問箇所一覧表

道 路 課

令和6年度公共事業再評価諮問箇所一覧表

No.	事業種別	事業箇所 (路線名)	事業年度 (上段:前回 下段:今回)	進捗率 (上段:前回 下段:今回)	対応方針
1	道路整備交付金事業	川棚有田線 (大野・桑古場工区)	H27～R元 H27～R9	— 88%	継続
2	道路橋りょう補助事業	梅野有田線 (今山工区)	H27～R元 H27～R8	— 73%	継続
3	道路整備交付金事業	加倉仮屋港線 (枝去木・有浦上工区)	H27～R6 H27～R11	— 47%	継続
4	道路整備交付金事業	肥前呼子線 (梨川内工区)	H26～R7 H26～R13	71% 53%	継続
5	道路整備交付金事業	唐津北波多線 (唐津工区)	H23～R6 H23～R11	54% 73%	継続
6	道路整備交付金事業	前原富士線 (上無津呂工区)	H21～R8 H21～R9	75% 81%	継続

【整備系】道路事業(一般改築)

事業の目的

交通渋滞が発生している道路、幅員が狭い道路等について、道路の新設や拡幅を行い、交通の円滑化を図る。

整備前



整備後



【整備系】道路事業(交通安全)

事業の目的

歩道整備や交差点改良を行うことで、歩行者・自転車利用者の安全性の向上及び交通の円滑化を図る。

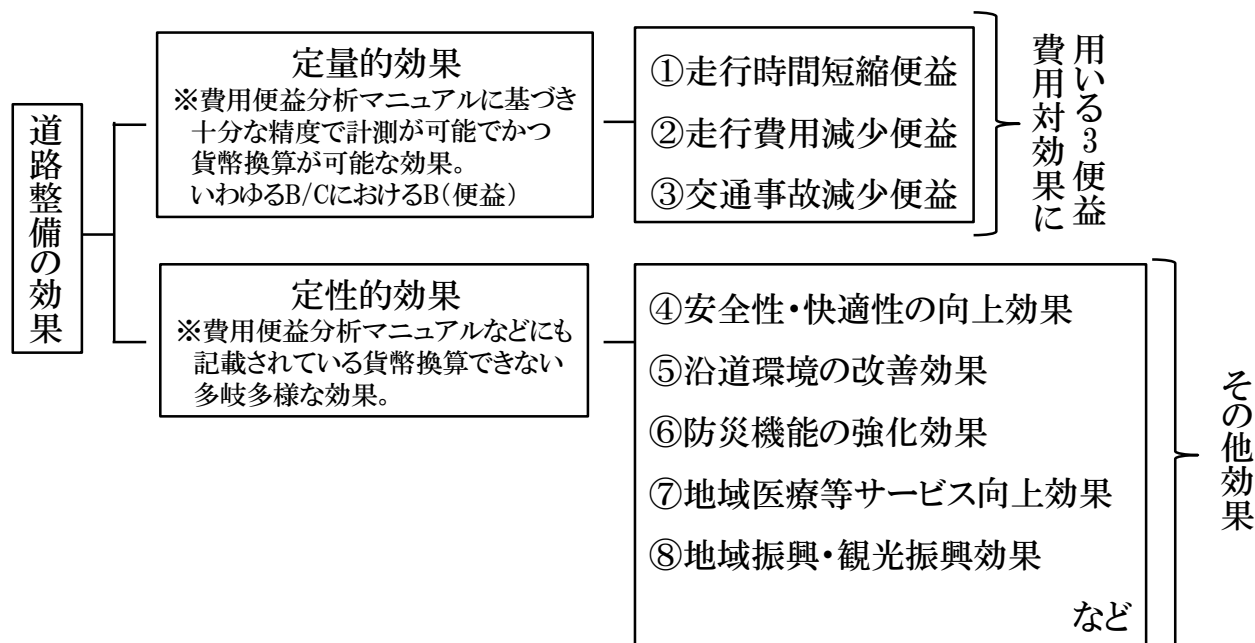
整備前



整備後



道路事業の整備効果



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

道路事業のB/Cの考え方

○総便益(B)：道路整備によって得られる便益

(内訳)

- ・走行時間短縮便益 整備による走行時間の短縮効果を費用に換算
- ・走行経費減少便益 整備によって走行条件が改善されることによる走行経費(燃料費、車両整備費等)の低下
- ・交通事故減少便益 整備による交通事故の社会的損失の減少額

○総費用(C)：道路整備及び維持管理に要する総費用

(内訳)

- ・道路整備に要する事業費 工事費、用地費、補償費等にかかる費用
- ・道路維持管理に要する費用 橋梁・トンネル等の道路構造物の点検・補修、巡回・清掃等にかかる費用
- ・道路構造物の更新に要する費用 橋梁等の構造物の更新にかかる費用

○費用便益比：総便益(B)/総費用(C)

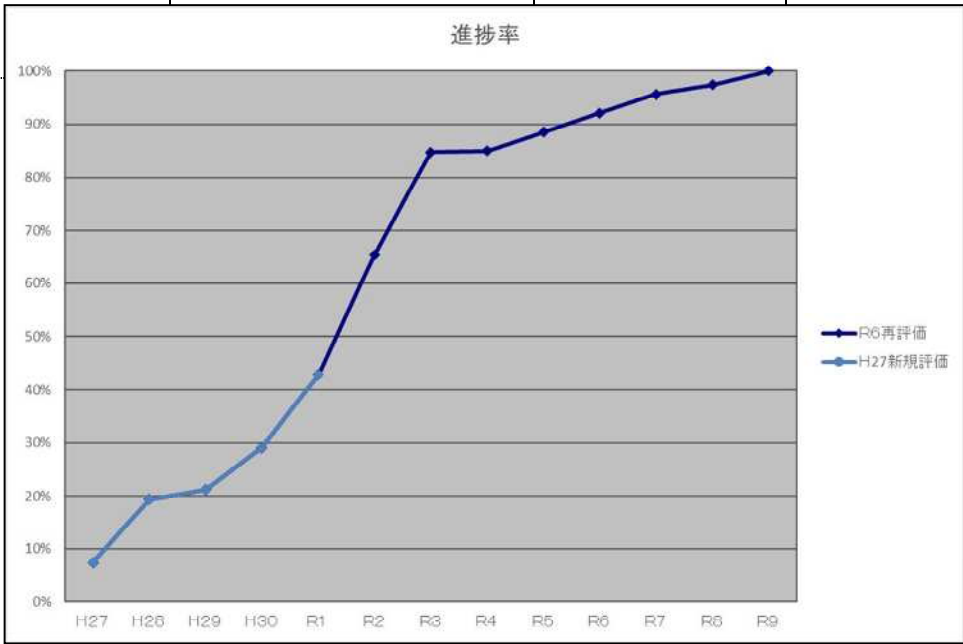
※便益と維持管理費は、供用開始後50年間で算定

令和6年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

(課名：道路課)

事業名 (路河川等名)	道路整備交付金事業 主要地方道 川棚有田線（大野・桑古場工区）
継続中止理由	○歩道の整備により「安全性の向上」が図られる。 ○用地買収も完了しており、今後も円滑な事業遂行が確保されている。 ○地元からも早期整備が望まれており、円滑な事業執行が可能である。 以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。
備考	

令和 6 年度再評価対象事業箇所（佐賀県公共事業評価実施要領第 2 条（2）②に該当する事業）

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済 情 勢 等 の 変 化	費用対効果の要 因の変化	コスト削減や代替案 等 の 可 能 性	再評価理由	対応方針 (事業課案)																																										
	H27 新規評価 時点	道路整備交付金事業 主要地方道 川棚有田線 (大野・桑古場工区) 事業主体：県 事業地：西松浦郡有 田町古木場	主要地方道川棚有田線は、一般国道35号から西九州自動車道の波佐見ICへのアクセス道路である。 当該区間は、有田中部小学校の通学路に指定されており、また、有田陶器市時には、臨時駐車場とを結び不特定多数の歩行者が利用する道路となっている。しかしながら、歩道がマウンドアップ形状となっていることから、町道への取付けが急勾配になっており、また、インターロッキングブロックの摩耗が著しく雨天時には滑りやすく、車いすなど歩道利用者へ支障をきたしている。 このため、歩道をセミフラット化することにより、道路との段差解消を図り、歩道利用者の安全性を確保するものである。	全体事業費：3.1億円 工期：H27～R元 工事内容 延長 L=1.2km 幅員 W=6.0(16.0)m 改良工 L=1.2km 舗装工 L=1.2km 測量試験 一式 用地補償 一式	—	—	—	現場発生材やクラッシャーラン等再生材の有効利用	—	—																																										
	R6 再評価 時点			全体事業費：5.7億円 工期：H27～R9 工事内容 延長 L=1.2km 幅員 W=9.0(16.0)m 改良工 L=1.2km 舗装工 L=1.2km 測量試験 一式 用地補償 一式	R5末進捗率：約88% (事業費ベース) 用地補償契約率：100% (面積ベース)	・H26年に実施された交通安全総点検にて、当該箇所は歩道の取付部が急勾配なことから要対策箇所となった。 ・秋季～春季にかけて有田陶器市をはじめとしたイベントが多いほか有田中部小学校の通学路にも指定されていることから、現在も自動車・歩行者数が多く依然として事業の必要性は高い。	—	再生資材の利用促進を図っている。	事業採択後、一定期間(10年)が経過した時点で継続中の事業	継続 (理由) ・歩道の整備により「安全性の向上」が図られることから、事業の必要性に変わらない。 ・用地買収も完了しており、今後も円滑な事業遂行が確保されている。 ・地元からも早期整備が望まれており、円滑な事業執行が可能である。																																										
	理由等			(事業費) ・建設資材の高騰及び労務費上昇による工事費の増 ・地元調整によりデザイン舗装を追加したことによる工事費の増 (工期) ・舗装デザインや施工方法について、地元や有田町と協議し、この協議に時間を要したことによる工期の延伸	進捗率  <table><caption>進捗率データ</caption><tr><th>年度</th><th>R6再評価 (%)</th><th>H27新規評価 (%)</th></tr><tr><td>H27</td><td></td><td>8</td></tr><tr><td>H28</td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>H29</td><td></td><td>22</td></tr><tr><td>H30</td><td></td><td>29</td></tr><tr><td>R1</td><td></td><td>43</td></tr><tr><td>R2</td><td></td><td>65</td></tr><tr><td>R3</td><td></td><td>84</td></tr><tr><td>R4</td><td></td><td>84</td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td>88</td></tr><tr><td>R6</td><td>92</td><td>92</td></tr><tr><td>R7</td><td>95</td><td>95</td></tr><tr><td>R8</td><td>96</td><td>96</td></tr><tr><td>R9</td><td>98</td><td>98</td></tr></table>					年度	R6再評価 (%)	H27新規評価 (%)	H27		8	H28		20	H29		22	H30		29	R1		43	R2		65	R3		84	R4		84	R5		88	R6	92	92	R7	95	95	R8	96	96	R9	98	98	
年度	R6再評価 (%)	H27新規評価 (%)																																																		
H27		8																																																		
H28		20																																																		
H29		22																																																		
H30		29																																																		
R1		43																																																		
R2		65																																																		
R3		84																																																		
R4		84																																																		
R5		88																																																		
R6	92	92																																																		
R7	95	95																																																		
R8	96	96																																																		
R9	98	98																																																		

令和6年度 再評価委員会

道路整備交付金事業

かわたなありた おおの くわこば
主要地方道 川棚有田線（大野・桑古場工区）

にしまつうらぐん ありた ふるこば
西松浦郡有田町古木場地内

再評価理由

事業採択後10年を経過するため

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

みらい
つながる
Tゾーン

佐賀県 県土整備部 道路課

位置図



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業目的



歩道のセミフラット化により

車道との段差解消

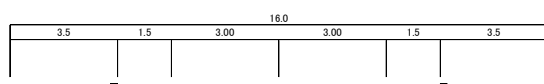
利用者の安全確保

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

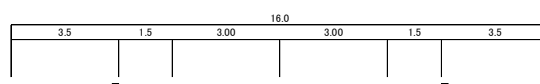
事業概要

	当初（平成27年度）	今回
全体事業費	3.1億円	5.7億円
工期	平成27年度～令和元年度	平成27年度～令和9年度
延長	1.2km	1.2km
幅員	6.0（16.0）m	6.0（16.0）m
事業内容	・改良工 L=1.2km ・舗装工 L=1.2km ・測量試験 一式 ・用地補償 一式	・改良工 L=1.2km ・舗装工 L=1.2km ・測量試験 一式 ・用地補償 一式

現況

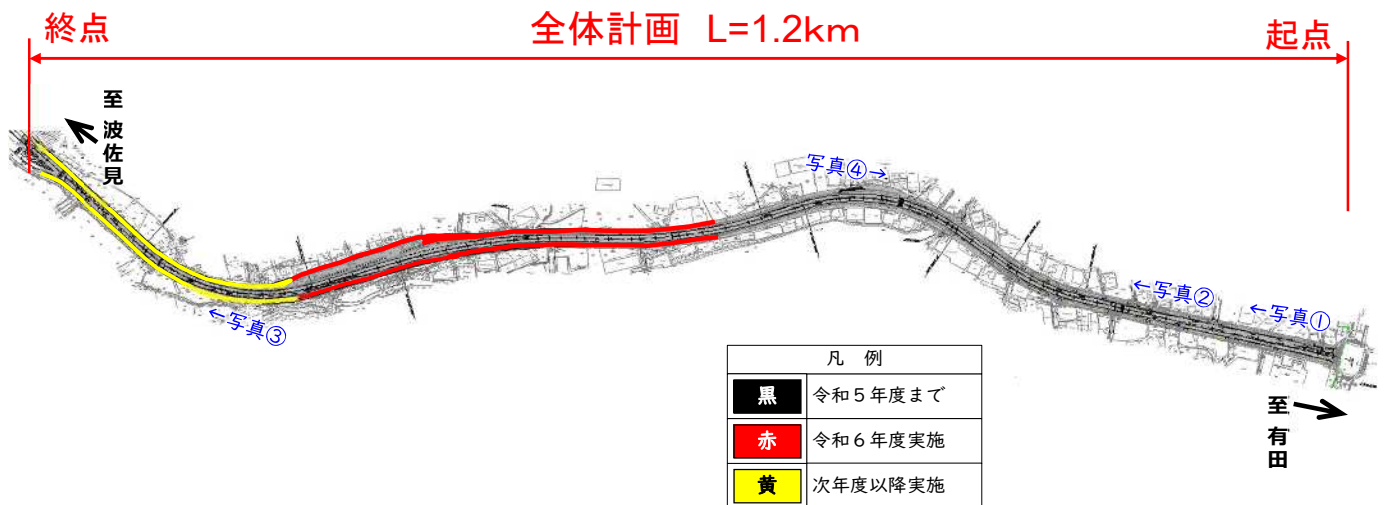


計画



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の進捗状況



	令和5年度まで	令和6年度	令和7年度以降
事業費（億円）	5.0	0.2	0.5
進捗率（%）	88.0	91.0	100.0
用地進捗率（%）※	100.0	100.0	100.0

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

※面積ベース

事業内容の見直し理由

(事業費の増額)

- 建設資材の高騰及び労務費上昇による工事費の増（+1.8億円）
- 地元調整によりデザイン舗装を追加したことによる工事費の増（+0.8億円）

(工期の延伸)

- 舗装デザインや施工方法について、地元や有田町と協議し、この協議に時間を要したことによる工期の延伸

現 地 状 況



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業を巡る社会経済情勢等の変化

○H26年に実施された交通安全総点検にて、当該箇所は歩道の取付部が急勾配なことから要対策箇所となった。

○秋季～春季にかけて有田陶器市をはじめとしたイベントが多いほか有田中部小学校の通学路にも指定されていることから、現在も自動車・歩行者数が多く依然として事業の必要性は高い。

コスト縮減や代替案等の可能性

○再生資材の利用促進を図っている。

事業の効果・必要性

○安全性・快適性の向上効果

歩道のセミフラット化により取付部の段差・急勾配が解消することで、有田陶器市時の当該道路に馴染みのない不特定多数であっても安全かつ円滑な通行が図られる。

○地域振興・観光振興効果

有田陶器市と臨時駐車場を結ぶ歩道の整備により、車いす利用等の歩行困難者も含めた歩道利用者の増加が期待できる。

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

対応方針(事業課案)

○歩道の整備により「安全性の向上」が図られることから、事業の必要性に変わりない。

○事業の進捗率は、事業費ベースで約88%[約5.0億円/約5.7億円]
(令和5年度末)であり、そのうち用地進捗率は100%となっている。

○地元からも早期整備が望まれており、円滑な事業執行が可能である。



事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい

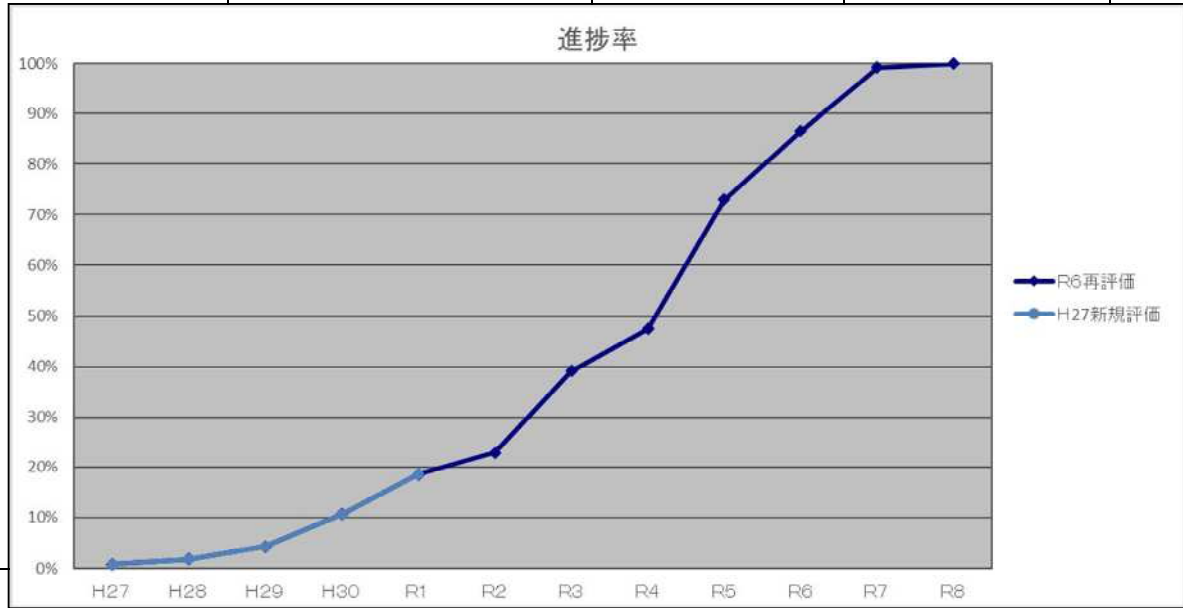
Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

令和6年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

(課名：道路課)

事業名 (路河川等名)	道路橋りょう補助事業 一般県道 梅野有田線 (今山工区)
継続・中止理由	○道路の整備により「交通の円滑化」「安全性の向上」が図られる。 ○用地買収も完了しており、今後も円滑な事業遂行が確保されている。 ○地元から早期整備が望まれており、今後の円滑な事業執行が可能である。 以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。
備考	

令和 6 年度再評価対象事業箇所（佐賀県公共事業評価実施要領第 2 条（2）②に該当する事業）

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済 情勢等の変化	費用対効果の要 因の変化	コスト削減や代替案 等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業継続)																																						
	H27 新規評価 時点	道路橋りょう補助事業 一般県道 梅野有田線 (今山工区) 事業主体：県 事業地：武雄市山内 町大野地内	本路線は、有田町・伊 万里市・武雄市を結ぶ地 域の物流路線であり、周 辺市町への通勤道路とし ての自動車交通量も多い 道路である。 当該区間は山内西小学 校、山内中学校の通学路 となっているものの、歩 道が無く、狭い路肩を通 行しており、朝夕の通学 時間帯などは非常に危険 な状況である。 このため、自転車歩行 者の安全性の向上及び交 通の円滑化を目的とし て、整備を実施するもの である。	全体事業費：5.2億円 工期：H27 ～R元 工事内容 延長 L=1,000m 幅員 W=6.0(11.00)m 改良工 L=1,000m 舗装工 L=1,000m 橋梁工 N=1橋 函渠工 N=2基 測量試験 一式 用地補償 一式	—	—	—	現場発生材やクラ ッシャーラン等再 生材の有効利用	—	—																																						
	R6 再評価 時点			全体事業費：13.1億円 工期：H27 ～R8 工事内容 延長 L=1,000m 幅員 W=6.0(10.25)m 改良工 L=1,000m 舗装工 L=1,000m 橋梁工 N=1橋 函渠工 N=2基 測量試験 一式 用地補償 一式	R5末進捗率：約73% (事業費ベース) (年平均進捗率：約8%) 用地補償契約率：100% (面積ベース)	・当該区間は山内西小学 校、山内中学校の通学路と なっており、地元の通学見 守の方から、整備が進み安 心感が増したことに対す る感謝とともに、残工事区 間の早期完成を望む声が 聞かれた。 ・当該工区内にある病院の 増築工事が現在行われて いる。今後、患者等を含む 病院関係者の自動車での 来院も増え、当該路線の交 通量の増加も見込まれる ため、依然として事業の必 要性は高い。	—	・再生資材の利用 促進を図ってい る。	事業採択後、 一定期間（10 年）が経過し た時点で継続 中の事業	継 続 (理由) ・道路の整備によ り「交通の円滑 化」「安全性の向 上」が図られるこ とから、事業の必 要性に関わりな い。 ・用地買収も完了 しており、今後も 円滑な事業遂行 が確保されてい る。 ・地元からも早期 整備が望まれて おり、今後の円滑 な事業執行が可 能である。																																						
	理由等			(事業費) ・建設資材の高騰及び労務 費上昇による工事費の増 ・補償物件の事前調査結果 による補償費の増 (工期) ・用地補償交渉において、 移転先地決定に時間を要 したことによる工期の延 伸	進捗率  <table><caption>進捗率データ</caption><tr><th>評価時点</th><th>R6再評価 (%)</th><th>H27新規評価 (%)</th></tr><tr><td>H27</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>H28</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>H29</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>H30</td><td>10</td><td>10</td></tr><tr><td>R1</td><td>18</td><td>18</td></tr><tr><td>R2</td><td>22</td><td>22</td></tr><tr><td>R3</td><td>38</td><td>38</td></tr><tr><td>R4</td><td>48</td><td>48</td></tr><tr><td>R5</td><td>72</td><td>72</td></tr><tr><td>R6</td><td>85</td><td>85</td></tr><tr><td>R7</td><td>98</td><td>98</td></tr><tr><td>R8</td><td>99</td><td>99</td></tr></table>					評価時点	R6再評価 (%)	H27新規評価 (%)	H27	1	1	H28	2	2	H29	4	4	H30	10	10	R1	18	18	R2	22	22	R3	38	38	R4	48	48	R5	72	72	R6	85	85	R7	98	98	R8	99	99
評価時点	R6再評価 (%)	H27新規評価 (%)																																														
H27	1	1																																														
H28	2	2																																														
H29	4	4																																														
H30	10	10																																														
R1	18	18																																														
R2	22	22																																														
R3	38	38																																														
R4	48	48																																														
R5	72	72																																														
R6	85	85																																														
R7	98	98																																														
R8	99	99																																														

令和6年度 再評価委員会

道路橋りょう補助事業

うめのありた いまやま
一般県道 梅野有田線（今山工区）

たけお やまうち おおの
武雄市山内町大野地内

再評価理由

事業採択後10年を経過するため

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



佐賀県 県土整備部 道路課

位置図



凡 例	
	国 道
	県 道
	対象路線

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業目的



現道拡幅・歩道の設置により

交通の円滑化

安全性の向上

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業概要

	当初（平成27年度）	今回
全体事業費	5.2億円	13.1億円
工期	平成27年度～令和元年度	平成27年度～令和8年度
延長	1,000m	1,000m
幅員	6.0（11.00）m	6.0（10.25）m
事業内容	・改良工 L=1,000m ・舗装工 L=1,000m ・橋梁工 N=1橋 ・函渠工 N=2基 ・測量試験 一式 ・用地補償 一式	・改良工 L=1,000m ・舗装工 L=1,000m ・橋梁工 N=1橋 ・函渠工 N=2基 ・測量試験 一式 ・用地補償 一式

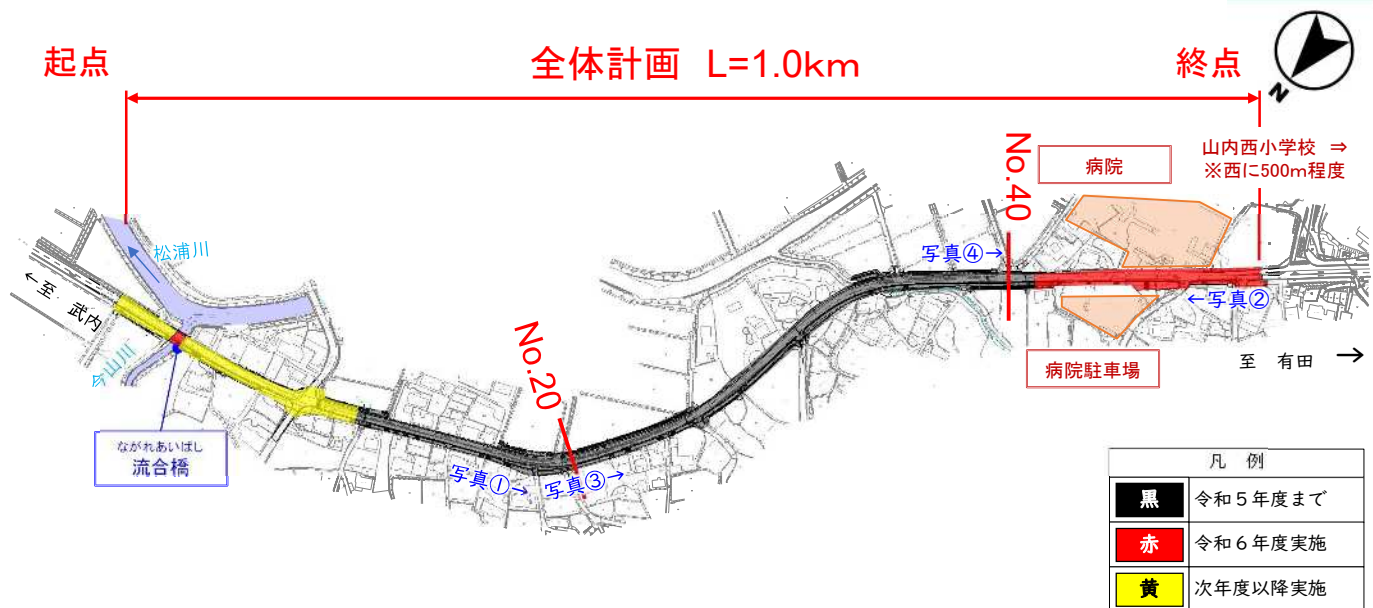
現況

計画

6000				10250				
500	2500	2500	500	1000	3000	3000	750	2500
(路肩)	(車道)	(車道)	(路肩)	(路肩)	(車道)	(車道)	(路肩)	(歩道)

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の進捗状況



	令和5年度まで	令和6年度	令和7年度以降
事業費（億円）	9.5	1.8	1.8
進捗率（%）	73.0	86.5	100.0
用地進捗率（%）※	100.0	100.0	100.0

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

※面積ベース

事業内容の見直し理由

（事業費の増額）

- 建設資材の高騰及び労務費上昇による工事費の増。（+3.7億円）
- 補償物件の事前調査結果による補償費の増。（+2.5億円）

（工期の延伸）

- 用地補償交渉において、移転先地決定に時間を要したことによる工期の延伸。

現 地 状 況



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業を巡る社会経済情勢等の変化

○当該区間は山内西小学校、山内中学校の通学路となっており、地元の通学見守の方から、整備が進み安心感が増したことに対する感謝とともに、残工事区間の早期完成を望む声が聞かれた。

○当該工区内にある病院の増築工事が現在行われている。今後、患者等を含む病院関係者の自動車での来院も増え、当該路線の交通量の増加も見込まれるため、依然として事業の必要性は高い。



センサス交通量・平日12時間		(台/12h)		
	H22	H27	R3	
梅野有田線 (山内町大野)	3,235	3,388	3,446	
※伸び率		1.05	1.02	

事業化以降、交通量は増加しており、今後さらなる増加が見込まれる。

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の効果・必要性

○安全性・快適性の向上効果

歩道設置による安全性向上及び道路拡幅による走行快適性向上が図られる。

○沿道環境の改善効果

走行快適性向上による騒音軽減が見込まれる。

○地域医療等向上効果

当該工区内にある病院の増築に伴い、来院者及び交通量の増加が見込まれる。当該道路に歩道を設置することで来院者、小中学校通学者等の歩行者の事故防止を期待できる。

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

コスト縮減や代替案等の可能性

○再生資材の利用促進を図っている。

対応方針(事業課案)

○道路の整備により「交通の円滑化」「安全性の向上」が図られることから、事業の必要性に変わりない。

○事業の進捗率は、事業費ベースで約73%[約9.5億円/約13.1億円]
(令和5年度末)であり、用地進捗率は100%となっている。

○地元からは早期整備が望まれており、円滑な事業執行が可能である。



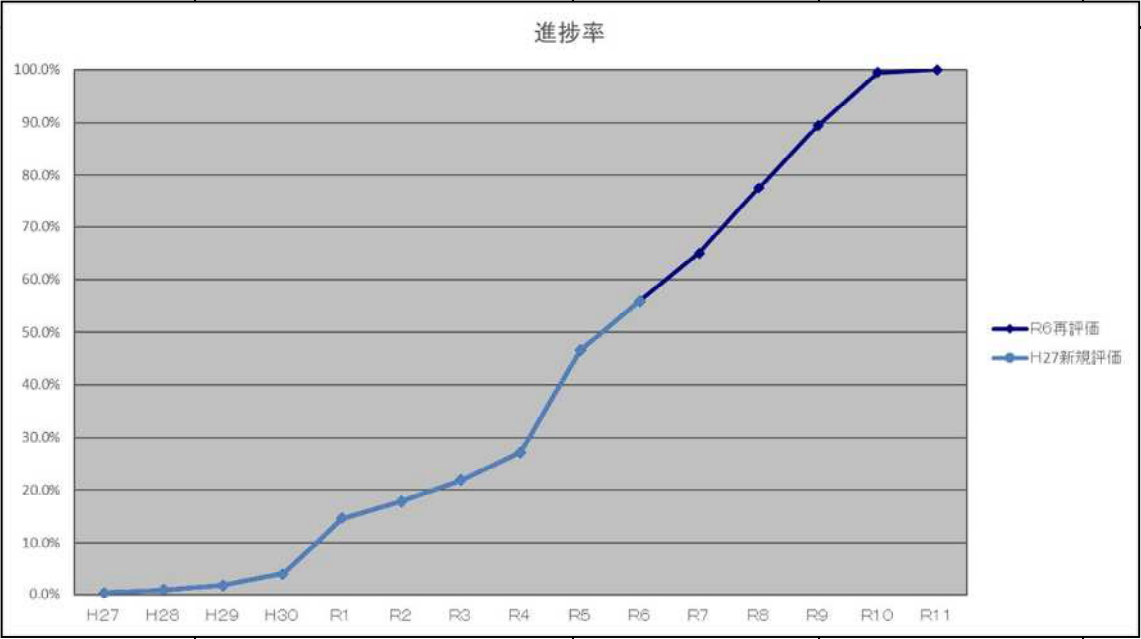
事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい

令和6年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

(課名：道路課)

事業名 (路河川等名)	道路整備交付金事業 一般県道 加倉仮屋港線 (枝去木・有浦上工区)
継続・中止理由	○平成31年4月に重要物流道路の補完路として指定された重要な路線である。 ○西九州自動車道の整備が進められる中、半島内からのアクセス性向上となる、事業効果の発現が必要である。 ○貨幣換算可能な効果を数値化した費用対効果(B/C)は、1.0以下であるが、貨幣換算が困難な効果として災害時の避難や物資輸送の防災機能の強化、県北西部の農畜産物の輸送効率化、企業誘致などによる地域振興や観光振興などの効果も期待できる。 以上のことから、当該事業の完成に向けて事業を継続することとしたい。
B/Cの 算出方法	【 便益 】 ・ 走行時間短縮便益 = 11.2億円 ・ 走行経費減少便益 = 0.8億円 ・ 交通事故減少便益 = 0.3億円 合計 = 12.3億円 【 費用 】 ・ 事業費 = 18.6億円 ・ 維持修繕費 = 1.6億円 合計 = 20.2億円 費用便益 B/C = 12.3 / 20.2 = 0.6 (社会的割引率4%) 【参考値】 費用便益 B/C = 0.9 (社会的割引率2%) 費用便益 B/C = 1.1 (社会的割引率1%) 費用便益 B/C = 1.4 (残事業：社会的割引率4%)
備考	

令和 6 年度再評価対象事業箇所（佐賀県公共事業評価実施要領第 2 条（2）②に該当する事業）

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業継続)
	H27 新規評価 時点	道路整備交付金事業 一般県道 加倉仮屋港線 (枝去木・有浦上工区) 事業主体：県 事業地： 唐津市枝去木 ～ 東松浦郡玄海町有浦上	一般県道加倉仮屋港線は、唐津市鎮西町加倉を起点とし、東松浦郡玄海町市街地を經由し、国道204号を結ぶ幹線道路であり、重要物流道路の補完路に指定されている。 当該箇所は、屈曲部があり、線形が悪いことと、幅員狭小であることから、バイパス整備及び現道拡幅により、安全で円滑な交通の確保に寄与するとともに、玄海町と唐津市中心部、更には西九州自動車道を經由して県外との物流及び交流の活性化にも寄与するものである。	全体事業費：12.5億円 工期：H27～R6 工事内容 延長 L=1,675m 幅員 W=6.0(10.0)m 改良工 L=1,675m 舗装工 L=1,675m 測量試験 一式 用地補償 一式	—	—	—	現場発生材やクラッシャーラン等再生材の有効利用	—	—
	R6 再評価 時点			全体事業費：20.0億円 工期：H27～R11 工事内容 延長 L=1,660m 幅員 W=6.0(10.0)m 改良工 L=1,660m 舗装工 L=1,660m 測量試験 一式 用地補償 一式	R5末進捗率：約47％ (事業費ベース) (年平均進捗率5.3％) 用地進捗率 約90％	西九州自動車道へのアクセス道路全体を早期に完成させ、西九州自動車道の効果を広く地域に波及させることで、企業誘致や地域振興の効果が期待されている。 平成31年4月に重要物流道路の補完路として指定された。 大規模災害時の地域住民の安全・安心の向上を図る効果も期待されており、依然として事業の必要性は高い。	B/C=0.6 (社会的割引率4%) 【参考値】 B/C=0.9 (社会的割引率2%) B/C=1.1 (社会的割引率1%) 残事業 B/C=1.4 (社会的割引率4%)	・事業間で工事工程を調整し、建設発生土の流用を行うことにより残土処分費の削減を図っている。 ・再生資材の利用促進を図っている。	事業採択後、一定期間（10年）が経過した時点で継続中の事業	継続 (理由) ・西九州自動車道の整備が進められる中、半島内からのアクセス性向上となる、事業効果の発現が必要。 ・貨幣換算可能な効果を数値化した費用対効果(B/C)は、1.0 以下であるが、貨幣換算が困難な効果として災害時の避難や物資輸送の防災機能の強化、県北西部の農畜産物の輸送効率化、企業誘致などによる地域振興や観光振興などの効果も期待できる。
	理由等			(事業費) ・建設資材の高騰及び労務費上昇による工事費の増 ・周辺環境への影響を考慮し、土砂運搬ルートを変更したことによる増 (工期) ・建設発生土の有効利用等を考慮した各年度の事業量及び工程調整を行ったことによる事業期間の延伸						以上のことから、当該事業完成に向けて、事業を継続することとしたい。

令和6年度 再評価委員会

道路整備交付金事業

かくらかりやこう えざるぎ ありうらかみ
一般県道 加倉仮屋港線（枝去木・有浦上工区）

から つ えざるぎ ひがしまつ うら げん かい あり うら かみ
唐津市枝去木～東松浦郡玄海町有浦上

再評価理由

事業採択後10年を経過するため

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



佐賀県 県土整備部 道路課

位置図



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業目的



原子力発電所が立地



バイパス整備・現道拡幅・線形改良・歩道の設置により

地域振興・観光振興

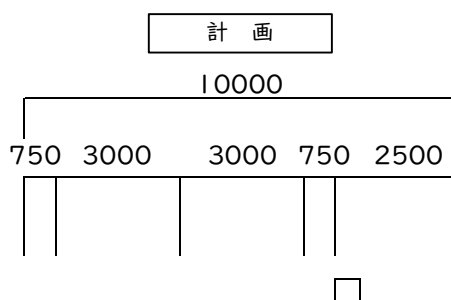
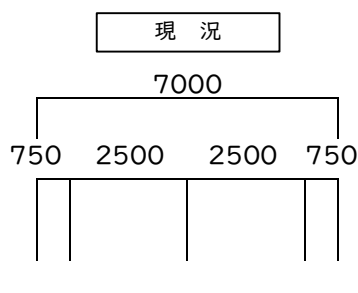
防災機能の強化

安全性の向上

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業概要

	当初（平成27年度）	今回
全体事業費	12.5億円	20.0億円
工期	平成27年度～令和6年度	平成27年度～令和11年度
延長	1.7km	1.7km
幅員	6.0（10.0）m	6.0（10.0）m
事業内容	・改良工 L=1,675m ・舗装工 L=1,675m ・測量試験 一式 ・用地補償 一式	・改良工 L=1,660m ・舗装工 L=1,660m ・測量試験 一式 ・用地補償 一式
費用対効果	—	0.6



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の進捗状況



	令和5年度まで	令和6年度	令和7年度以降
事業費(億円)	9.3	1.8	8.9
進捗率(%)	46.5	55.9	100.0
用地進捗率(%)※	90.3	97.2	100.0

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

※面積ベース

事業内容の見直し理由

(事業費の増額)

- 建設資材の高騰及び労務費上昇による工事費の増 (+5.0億円)
- 周辺環境への影響を考慮し、土砂運搬ルートを変更したことによる増 (運搬距離6km → 11.5km) (+2.5億円)

(事業期間の延伸)

- 建設発生土の有効利用等を考慮した各年度の事業量及び工程調整を行ったことによる事業期間の延伸

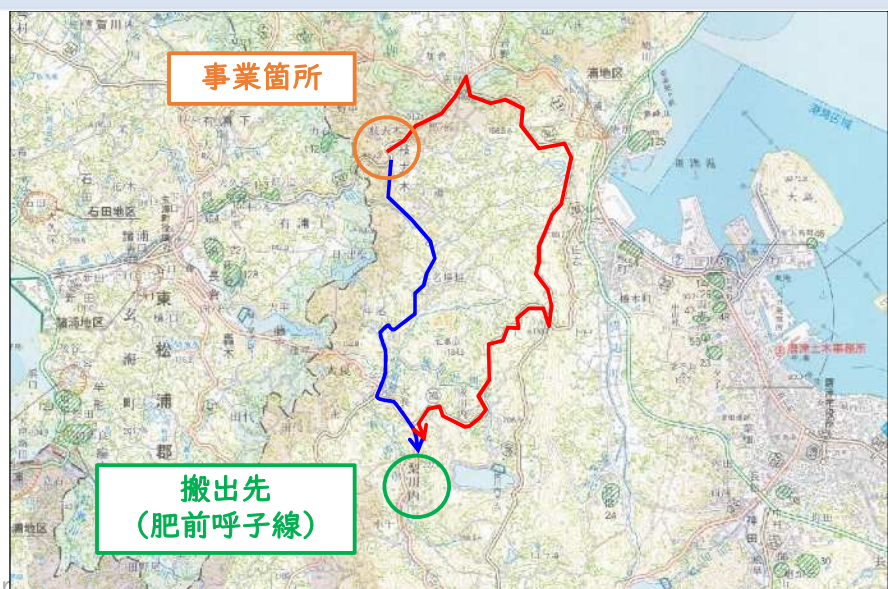
発生土運搬ルート

【当初ルート】

L=6.0km

【変更ルート】

L=11.5km



Copyright © 2024 Saga Prefecture

現 地 状 況

【加倉仮屋港線(枝去木・有浦上)】

①起点付近
[未整備箇所]



②集落付近
[現道箇所]



バイパス終点から起点を望む
[バイパス整備中] 【写真③】



バイパス部起点から終点側を望む
[整備中] 【写真④】



事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 西九州自動車道へのアクセス道路全体を早期に完成させ、西九州自動車道の効果を広く地域に波及させることで、企業誘致や地域振興の効果が期待されている。
- 平成31年4月に重要物流道路の補完路として指定された。
- 大規模災害時の地域住民の安全・安心の向上を図る効果も期待されており、依然として事業の必要性は高い。

事業の効果・必要性(費用対効果)

○東松浦半島地域では将来予測交通量の減による便益の減少及び事業費増による費用の増加でB/Cは、下記のとおりとなっている。

事業全体	総便益 (B) 12.3億円	
費用対効果 (B/C) =	総費用 (C) 20.2億円	= 0.6
※社会的割引率4%		

【参考値】

事業全体	【社会的割引率2%】費用対効果 (B/C) =	0.9
	【社会的割引率1%】費用対効果 (B/C) =	1.1

残事業	費用対効果 (B/C) =	1.4
※社会的割引率4%		

<参考>

※基準年(令和6年度)における現在価値

○総便益 (B) = 走行時間短縮便益 + 走行経費縮小便益 + 交通事故減少便益

○総費用 (C) = 事業費 + 維持管理費 + 道路構造物の更新費

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の効果・必要性(その他効果)

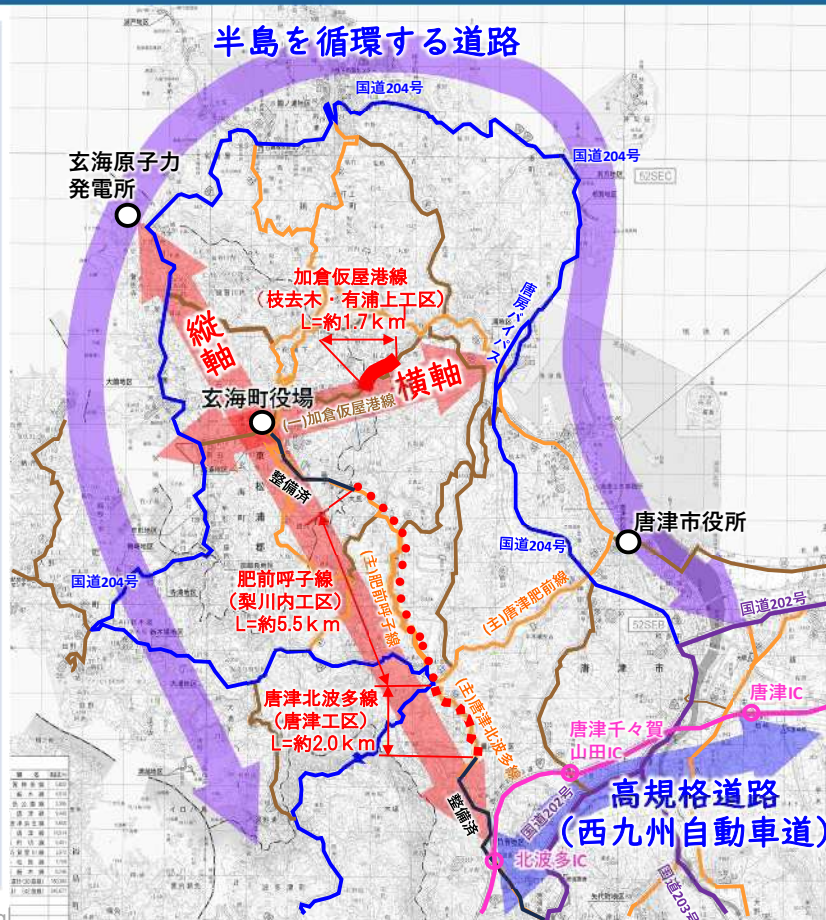
○防災機能の強化効果

- ・東松浦半島は、県内唯一の半島
- ・複雑な海岸線と起伏のある台地
- ・道路は狭隘部や急カーブが多い

半島内の道路は、地震など災害時における円滑な避難や復旧を行うために、道路ネットワークの強化が必要

道路整備の実施

- ・高規格道路や幹線道路へのアクセス向上
- ・玄海町役場から西九州自動車道の北波多ICまでの最短ルート
- ・避難・救援道路としての防災機能の強化



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の効果・必要性(その他効果)

○地域振興・観光振興効果

- ・農畜産業や漁業の就業人口が多い
- ・代表的な畑作地帯で農水産品の輸送量が多い。
- ・点在する観光資源が多い

道路整備の実施

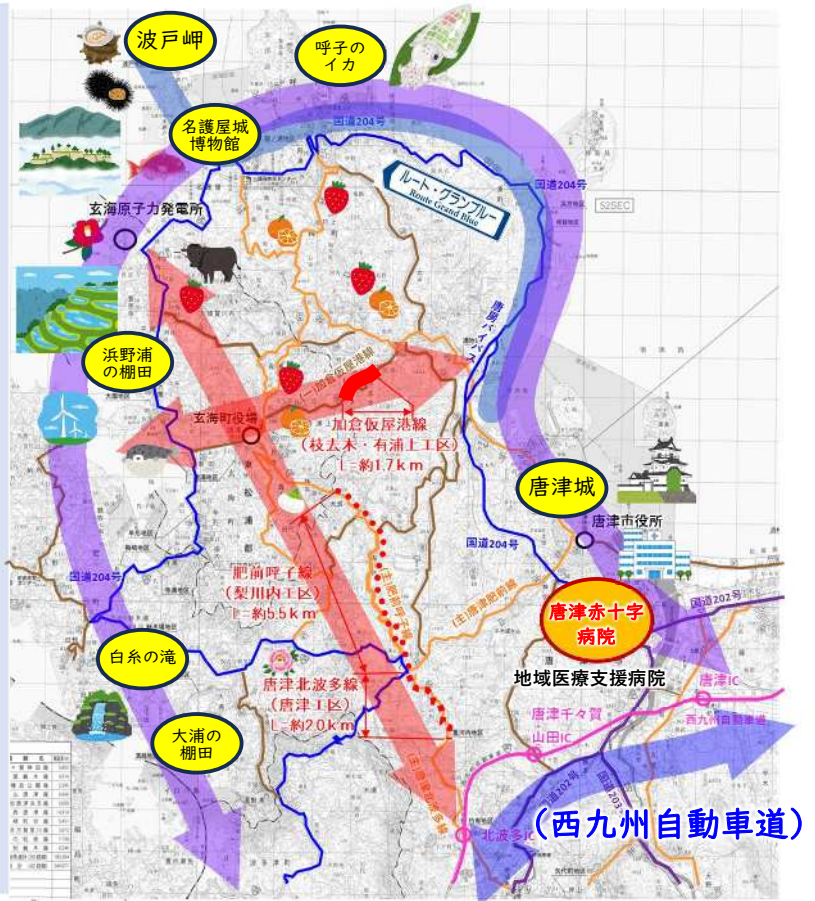
- ・高規格道路や幹線道路へのアクセス向上し、地域振興や観光振興の効果が期待できる

○地域医療等サービス向上効果

- ・道路の狭隘部、急カーブ等が多い
- ・道路が救急医療などの際に命をつなぐ役割を担っている

道路整備の実施

- ・医療機関等へのアクセスが向上し、公共サービスの向上効果が期待できる



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

コスト縮減や代替案等の可能性

○事業間で工事工程を調整し、建設発生土の流用を行うことにより残土処分費の縮減を図っている。

○再生資材の利用促進を図っている。

対応方針(事業課案)

○西九州自動車道の整備が進められる中、半島内からのアクセス性向上となる、事業効果の発現が必要。

○貨幣換算可能な効果を数値化した費用対効果（B／C）は、1.0 以下であるが、貨幣換算が困難な効果として災害時の避難や物資輸送の防災機能の強化、県北西部の農畜産物の輸送効率化、企業誘致などによる 地域振興や観光振興などの効果も期待できる。



事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい

令和6年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

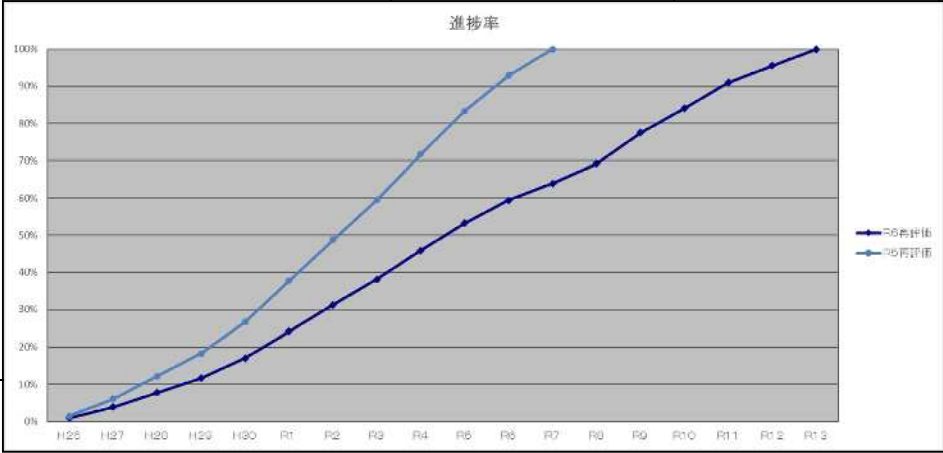
(課名： 道路課)

事業名 (路河川等名)	道路整備交付金事業 主要地方道 肥前呼子線 (梨川内工区)
継続・中止理由	○西九州自動車道の整備が進められる中、半島内からのアクセス性向上となる、事業効果の発現が必要である。 ○貨幣換算可能な効果を数値化した費用対効果(B/C)は、1.0以下であるが、貨幣換算が困難な効果として災害時の避難や物資輸送の防災機能の強化、県北西部の農畜産物の輸送効率化、企業誘致などによる 地域振興や観光振興などの効果も期待できる。 以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。
B/Cの 算出方法	【 便益 】 ・ 走行時間短縮便益 = 52.5 億円 ・ 走行費用短縮便益 = 5.1 億円 ・ 交通事故減少便益 = 0.2 億円 合計 = 57.8 億円 【 費用 】 ・ 事業費 = 84.8 億円 ・ 維持修繕費 = 5.5 億円 合計 = 90.3 億円 費用便益 B/C = $57.8 / 90.3$ = 0.6 (社会的割引率4%) 【参考値】 費用便益 B/C = 1.0 (社会的割引率2%) 費用便益 B/C = 1.3 (社会的割引率1%) 費用便益 B/C = 1.8 (残事業：社会的割引率4%)
備考	

令和 6 年度再評価対象箇所
(対象：令和 5 年度再評価実施箇所)

(佐賀県公共事業評価実施要領第 2 条 (2) ④に該当する事業)

番 号	項 目	事 業 名 (路・河川名等)	事 業 目 的	事 業 概 要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済 情 勢 等 の 変 化	費用対効果 の要因の変化	コスト削減や代替案 等 の 可 能 性	再評価理由	対応方針 (事業観)
	R5 再評価 時点	道路整備交付 金事業 主要地方道 肥前呼子線 (梨川内工区) 事業主体：県 事業地：唐津市 竹木場～大良	事業地域である玄海町及び唐津市から西九州自動車道の北波多インターチェンジへのアクセス道路となる「県道肥前呼子線道路整備事業」を実施することにより、企業誘致や地域振興を図り、西九州自動車道の効用を波及させ、活力ある地域を育む道づくりを促進し、併せて豪雨などによる大規模災害時の避難・救援道路として地域住民の安全・安心に寄与するものである。	全体事業費：57.0億円 工期：H26～R7 工事内容 延長 L=5.5km 幅員 W=6.0 (10.0) m 改良工 L=5.5km 舗装工 L=5.5km 橋梁工 N=6橋 函渠工 N=1基 測量試験 一式 用地補償 一式	R4末進捗率：約71％ (事業費ベース) (年平均進捗率：約8％) ○用地補償契約率:約84％ (面積ベース)	当該路線と連続し、玄海町及び唐津市から西九州自動車道の北波多ICへのアクセス道路となる町道長倉藤平線が全線供用 (R1.7)。また、県道唐津北波多線の一部が供用された。 西九州自動車道へのアクセス道路全体を早期に完成させ、西九州自動車道の効果を広く地域に波及させることで、企業誘致や地域振興を図ることが求められている。 併せて大規模災害時の地域住民の安全・安心の向上を図ることが求められており、依然として事業の必要性は高い。	B/C=1.2 B/Cは1.0を上回っている	(コスト削減) ・工事で発生する残土を盛土等に流用する。 ・再生資材の利用促進を図る。 (代替案の検討) ・特になし	事業採択後10年を経過するため再評価	継 続 (理由) ・当該路線を含む西九州自動車道へのアクセス道路の整備が進められており、早期の効果発現が求められている。 ・企業誘致や地域振興、また大規模災害時の地域住民の安全・安心の向上を図る必要があり、依然として事業の必要性は高い。 このため、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。
	R6 再評価 時点			全体事業費：85.8億円 工期：H26～R13 工事内容 延長 L=5.5km 幅員 W=6.0 (10.0) m 改良工 L=5.5km 舗装工 L=5.5km 橋梁工 N=6橋 函渠工 N=1基 測量試験 一式 用地補償 一式	R5末進捗率：約53％ (事業費ベース) (年平均進捗率：約5％) ○用地補償契約率:約84％ (面積ベース)	肥前呼子線と連続した、玄海町から西九州自動車道の北波多ICへのアクセス道路となる町道長倉藤平線が全線供用 (R1.7)。また、県道唐津北波多線の一部が供用された。 西九州自動車道へのアクセス道路全体を早期に完成させ、西九州自動車道の効果を広く地域に波及させることで、企業誘致や地域振興の効果が期待されている。 唐津北波多線の終点付近で令和7年4月から高峰小学校が開校し、更なる交通量の増加が見込まれる。 大規模災害時の地域住民の安全・安心の向上を図る効果も期待されており、依然として事業の必要性は高い。	B/C=0.6 〔社会的割引率4％〕 【参考値】 B/C=1.0 〔社会的割引率2％〕 B/C=1.3 〔社会的割引率1％〕 残事業 B/C=1.8 〔社会的割引率4％〕	・事業間で工事工程を調整し、建設発生土の流用を行うことにより盛土材料費の削減を図っている。 ・再生資材の利用促進を図っている。 ・道路縦断勾配の見直しによる、盛土量の削減及び構造物規模の縮小 ・事業地に隣接する民地の新規土採取などの開発状況に合わせた、事業展開による、用地買収面積及び事業範囲の削減	前回再評価時より工期延伸及び事業費増額のため再評価	継続 (理由) ・西九州自動車道の整備が進められる中、半島内からのアクセス性向上となる、事業効果の発現が必要。 ・貨幣換算可能な効果を数値化した費用対効果 (B/C) は、1.0 以下であるが、貨幣換算が困難な効果として災害時の避難や物資輸送の防災機能の強化、県北西部の農畜産物の輸送効率化、企業誘致などによる 地域振興や観光振興などの効果も期待できる。 以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。
	理由等			(事業費の増額) ○建設資材の高騰及び労務費上昇による工事費の増 ○土質の変更や土砂小運搬量などの現場特有の要因に伴う工事費の増 ○支障物件移設工法の変更及び用地費の詳細評価額算出による補償費の増 (工期の延伸) ○建設発生土の有効利用等を考慮した各年度の事業量及び工程調整を行ったことによる事業期間の延伸						



令和6年度 再評価委員会

道路整備交付金事業

ひぜんよぶこ なしがわち
主要地方道 肥前呼子線（梨川内工区）

からつし たけこば だいら
唐津市竹木場～大良

再評価理由

再評価実施後5年が経過する前に工期延伸及び
事業費を増額するため

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

みらい
つながる
Tゾーン

佐賀県 県土整備部 道路課

位置図



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業目的



原子力発電所が立地



バイパス整備・現道拡幅・線形改良・歩道の設置により

地域振興・観光振興

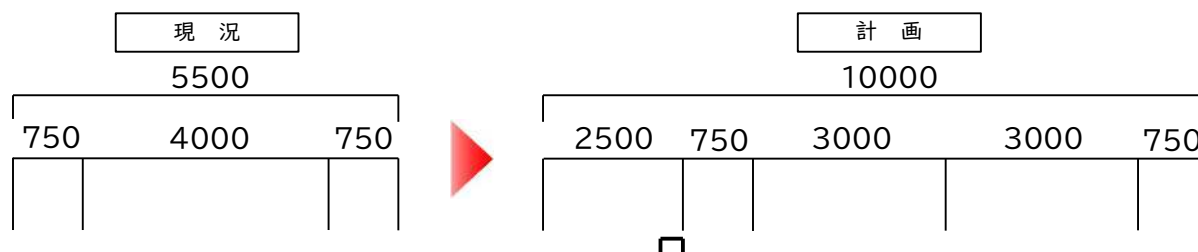
防災機能の強化

安全性の向上

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

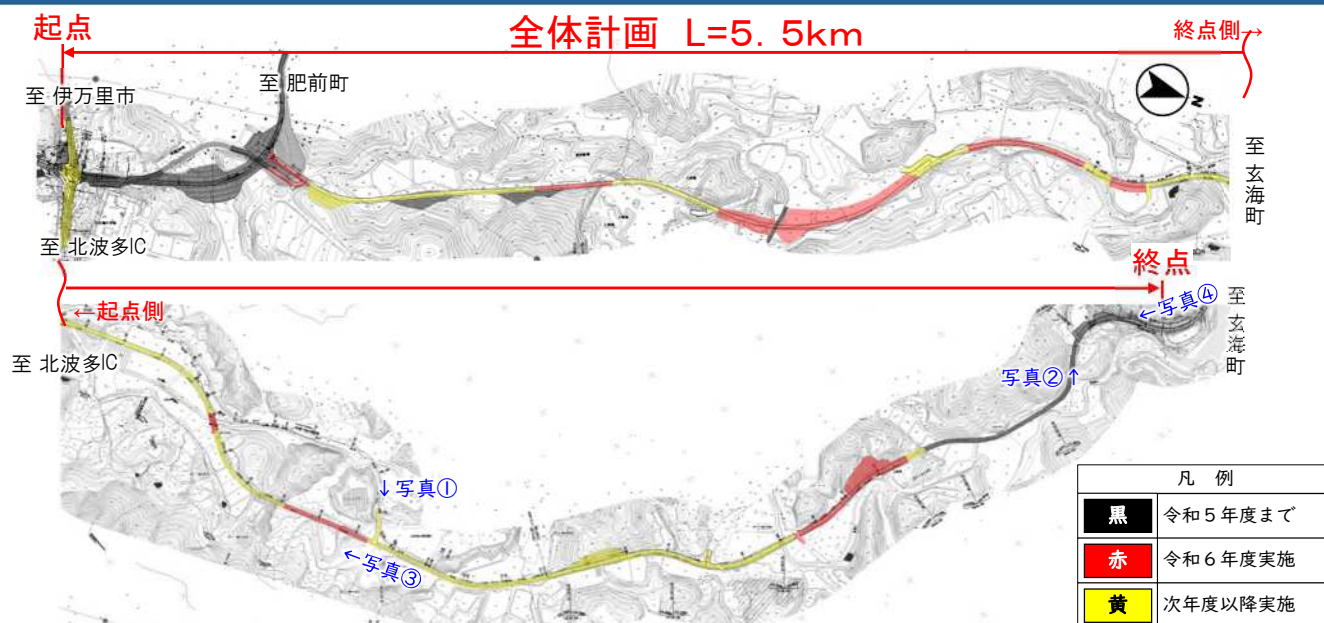
事業概要

	前回再評価（令和５年度）	今回
全体事業費	５７．０億円	８５．８億円
工期	平成２６年度～令和７年度	平成２６年度～令和１３年度
延長	５．５ｋｍ	５．５ｋｍ
幅員	６．０（１０．０）ｍ	６．０（１０．０）ｍ
事業内容	・改良工 L＝５．５ｋｍ ・舗装工 L＝５．５ｋｍ ・橋梁工 N＝６橋 ・函渠工 N＝１基 ・測量試験 一式 ・用地補償 一式	・改良工 L＝５．５ｋｍ ・舗装工 L＝５．５ｋｍ ・橋梁工 N＝６橋 ・函渠工 N＝１基 ・測量試験 一式 ・用地補償 一式
費用対効果	１．２	０．６



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の進捗状況



	令和5年度まで	令和6年度	令和7年度以降
事業費(億円)	45.5	5.3	35.0
進捗率(%)	53.0	59.2	100.0
用地進捗率(%)※	84.0	84.0	100.0

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

※面積ベース

事業内容の見直し理由

(事業費の増額)

- 建設資材の高騰及び労務費上昇による工事費の増 (+12.6億円)
- 土質の変更や土砂小運搬量などの現場特有の要因に伴う工事費の増 (軟岩→硬岩、運搬量0千³m → 219千³m) (+10.6億円)
- 支障物件移設工法の変更及び用地費の詳細評価額算出による補償費の増 (+2.7億円)

(工期の延伸)

- 建設発生土の有効利用等を考慮した各年度の事業量及び工程調整を行ったことによる事業期間の延伸

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

現 地 状 況

梨川内地区
〔未整備箇所〕【写真①】



終点付近
〔未整備箇所〕【写真②】



〔整備中〕
（バイパス整備中）【写真③】



終点付近
〔整備完了箇所〕【写真④】



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 肥前呼子線と連続した、玄海町から西九州自動車道の北波多ICへのアクセス道路となる町道長倉藤平線が全線供用（R1.7）。また、県道唐津北波多線の一部が供用された。
- 西九州自動車道へのアクセス道路全体を早期に完成させ、西九州自動車道の効果を広く地域に波及させることで、企業誘致や地域振興の効果が期待されている。
- 唐津北波多線の終点付近で令和7年4月から高峰小学校が開校し、更なる交通量の増加が見込まれる。
- 大規模災害時の地域住民の安全・安心の向上を図る効果も期待されており、依然として事業の必要性は高い。



事業の効果・必要性(費用対効果)

○東松浦半島地域では将来予測交通量の減による便益の減少及び事業費増による費用の増加でB/Cは、下記のとおりとなっている。

事業全体	
費用対効果 (B/C) =	$\frac{\text{総便益 (B)} \quad 57.8 \text{ 億円}}{\text{総費用 (C)} \quad 90.3 \text{ 億円}} = 0.6$
	※社会的割引率 4 %

【参考値】

事業全体	
【社会的割引率 2 %】費用対効果 (B/C) =	1.0
【社会的割引率 1 %】費用対効果 (B/C) =	1.3

残事業	
費用対効果 (B/C) =	1.8
	※社会的割引率 4 %

※基準年（令和6年度）における現在価値

<参考>

○総便益 (B) = 走行時間短縮便益 + 走行経費縮小便益 + 交通事故減少便益
 ○総費用 (C) = 事業費 + 維持管理費 + 道路構造物の更新費

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の効果・必要性(その他効果)

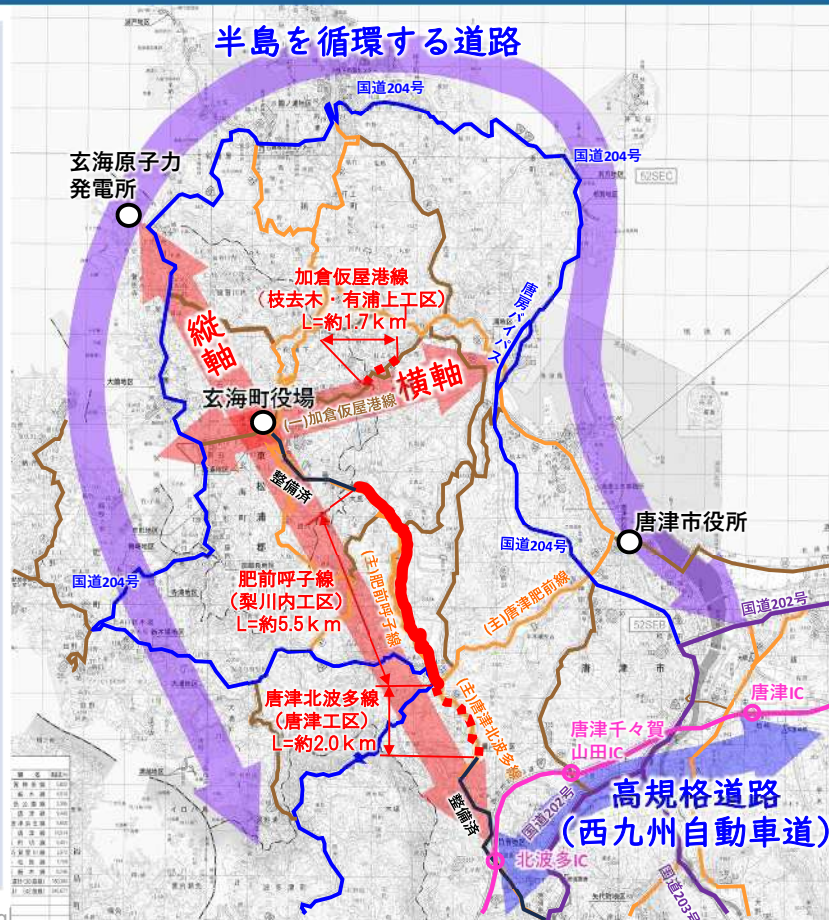
○防災機能の強化効果

- ・東松浦半島は、県内唯一の半島
- ・複雑な海岸線と起伏のある台地
- ・道路は狭隘部や急カーブが多い

半島内の道路は、地震など災害時における円滑な避難や復旧を行うために、道路ネットワークの強化が必要

道路整備の実施

- ・高規格道路や幹線道路へのアクセス向上
- ・玄海町役場から西九州自動車道路の北波多ICまでの最短ルート
- ・避難・救援道路としての防災機能の強化



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

対応方針(事業課案)

○西九州自動車道の整備が進められる中、半島内からのアクセス性向上となる、事業効果の発現が必要。

○貨幣換算可能な効果を数値化した費用対効果（B／C）は、1.0 以下であるが、貨幣換算が困難な効果として災害時の避難や物資輸送の防災機能の強化、県北西部の農畜産物の輸送効率化、企業誘致などによる 地域振興や観光振興などの効果も期待できる。



事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい

令和6年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

(課名：道路課)

事業名 (路河川等名)	道路整備交付金事業 主要地方道 唐津北波多線(唐津工区)
継続・中止理由	○西九州自動車道の整備が進められる中、半島内からのアクセス性向上となる、事業効果の発現が必要である。 ○貨幣換算可能な効果を数値化した費用対効果(B/C)は、1.0以下であるが、貨幣換算が困難な効果として災害時の避難や物資輸送の防災機能の強化、県北西部の農畜産物の輸送効率化、企業誘致などによる 地域振興や観光振興などの効果も期待できる。 以上のことから、当該事業の完成に向けて事業を継続することとしたい。
B/Cの 算出方法	【 便益 】 ・ 走行時間短縮便益 = 31.0 億円 ・ 走行経費減少便益 = 2.2 億円 ・ 交通事故減少便益 = 0.3 億円 - 合計 = 33.5 億円 【 費用 】 ・ 事業費 = 45.0 億円 ・ 維持修繕費 = 2.2 億円 - 合計 = 47.2 億円 費用便益 B/C = 33.5 / 47.2 = 0.7 (社会的割引率4%) 【参考値】 - 費用便益 B/C = 1.1 (社会的割引率2%) - 費用便益 B/C = 1.4 (社会的割引率1%) - 費用便益 B/C = 3.2 (残事業：社会的割引率4%)
備考	

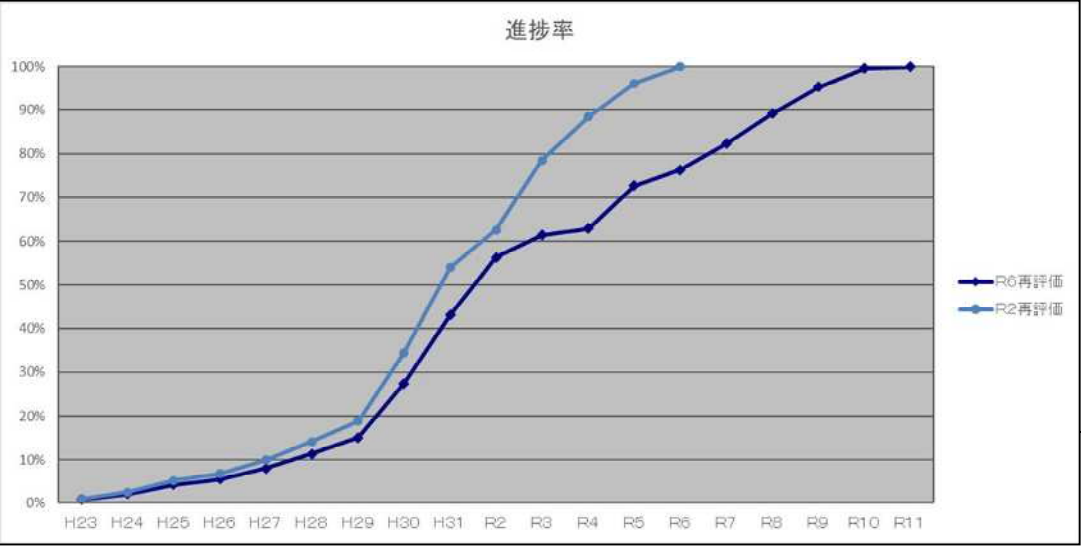
令和 6 年度再評価対象箇所
(対象：令和 2 年度再評価実施箇所)

(佐賀県公共事業評価実施要領第 2 条（2）④に該当する事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課案)
	R2 再評価 時点	道路整備交付金事業 主要地方道唐津北波多線（唐津工区） 事業主体：県 事業地：唐津市重河内	本路線は唐津市竹木場を起点とし唐津市北波多徳須恵へ至る幹線道路であり、国道203号及び西九州自動車道北波多ICと東松浦半島の上場地区を結ぶ広域的な産業生活圏を形成する重要な路線である。 本計画区間を整備することで、北波多ICから唐津市街地への交通の円滑化を図るとともに、歩道整備により、周辺に存する高峰小学校（令和7年4月開校）・高峰中学校の生徒や地域住民の交通安全の向上にも寄与するものである。	全体事業費：33.5億円 工期：H23～R6 事業内容： 延長 L=2,000m 幅員 W=6.0(10.0)m 改良工 L=2,000m 舗装工 L=2,000m 測定 1式 用地補償 1式	○R1末進捗率：約54% (事業費ベース) (年平均進捗率7%) ○用地補償契約 約92%	東松浦半島は、農畜水産業の盛んな地域であり、「佐賀牛」や「仮屋湾の真鯛」などはブランド化により出荷額が増加傾向にあり、輸送経路の整備により産業の活性化が期待される。 平成25年3月に西九州自動車道北波多ICが開通し、福岡や伊万里方面からのアクセスが向上し、交通量が増加している。	事業採択時と比較して大きな要因の変化は見られない。 B/C = 1.1	(コスト削減) ・再生資材の利用促進を図っている。 ・工事で発生する残土を盛土等に流用する。 (代替案の検討) ・特になし	事業採択後、10年経過	継続 (理由) 当該箇所の事業の必要性に変化がなく、交通の円滑化と交通安全を図るため、事業を継続したい
	R6 再評価 時点			全体事業費：42.2億円 工期：H23～R11 事業内容： 延長 L=2,000m 幅員 W=6.0(10.0)m 改良工 L=2,000m 舗装工 L=2,000m 測定 1式 用地補償 1式	○R5末進捗率：約73% (事業費ベース) (年平均進捗率6%) ○用地補償契約 100%	肥前呼子線と連続した、玄海町から西九州自動車道の北波多ICへのアクセス道路となる町道長倉藤平線が全線供用(R1.7)。また、県道唐津北波多線の一部が供用された。 西九州自動車道へのアクセス道路全体を早期に完成させ、西九州自動車道の効果を広く地域に波及させることで、企業誘致や地域振興の効果が期待されている。 唐津北波多線の終点付近で令和7年4月から高峰小学校が開校し、更なる交通量の増加が見込まれる。 大規模災害時の地域住民の安全・安心の向上を図る効果も期待されており、依然として事業の必要性は高い。	B/C=0.7 (社会的割引率4%) 【参考値】 B/C=1.1 (社会的割引率2%) B/C=1.4 (社会的割引率1%) 残事業 B/C=3.2 (社会的割引率4%)	・事業間で工事工程を調整し、建設発生土の流用を行うことにより残土処分費の削減を図っている。 ・再生資材の利用促進を図っている。 ・地元利用状況を反映した取付道路計画の見直しによる工事規模の縮小	前回再評価時より工期延伸及び事業費増額のため再評価	継続 (理由) ・西九州自動車道の整備が進められる中、半島内からのアクセス性向上となる、事業効果の発現が必要。 ・貨幣換算可能な効果を数値化した費用対効果（B／C）は、1.0 以下であるが、貨幣換算が困難な効果として災害時の避難や物資輸送の防災機能の強化、県北西部の農畜産物の輸送効率化、企業誘致などによる 地域振興や観光振興などの効果も期待できる。 以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。
	理由等					(事業費) ・建設資材の高騰及び労務費上昇による工事費の増。 ・山切区間において掘削土質の変更による工事費の増 (工期) ・山切施工区間における地質条件の変更に伴う延伸。 ・建設発生土の有効利用等を考慮した各年度の事業量及び工程調整を行ったことによる事業期間の延伸 ・農水管移設協議に不測の日数を要したことによる延伸。				

進捗率

年次	R2再評価 (%)	R6再評価 (%)
0	20	20
1	25	25
2	35	30
3	45	40
4	55	50
5	65	60
6	75	65
7	85	70
8	90	75
9	95	80
10	100	85
11		90
12		95
13		100
14		100
15		100



令和6年度 再評価委員会

道路整備交付金事業

からつきたはた からつ
主要地方道 唐津北波多線（唐津工区）

からつ しげかわち
唐津市重河内地内

再評価理由

再評価実施後5年が経過する前に工期延伸及び
事業費を増額するため

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

みらい
つながる
Tゾーン

佐賀県 県土整備部 道路課

位置図



事業目的



原子力発電所が立地



バイパス整備・現道拡幅・線形改良・歩道の設置により

地域振興・観光振興

防災機能の強化

安全性の向上

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

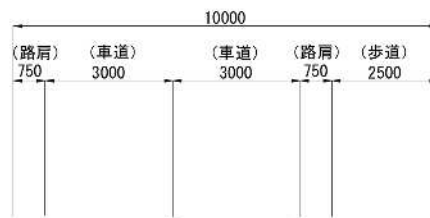
事業概要

	前回再評価（令和2年度）	今回
全体事業費	33.5億円	42.2億円
工期	平成23年度～令和6年度	平成23年度～令和11年度
延長	2.0km	2.0km
幅員	6.0（10.0）m	6.0（10.0）m
事業内容	・改良工 L=2.0km ・舗装工 L=2.0km ・測量試験 一式 ・用地補償 一式	・改良工 L=2.0km ・舗装工 L=2.0km ・測量試験 一式 ・用地補償 一式
費用対効果	1.1	0.7

現況



計画



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の進捗状況



	令和5年度まで	令和6年度	令和7年度以降
事業費(億円)	30.6	1.5	10.0
進捗率(%)	72.7	76.3	100.0
用地進捗率(%)※	100.0	100.0	100.0

※面積ベース

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

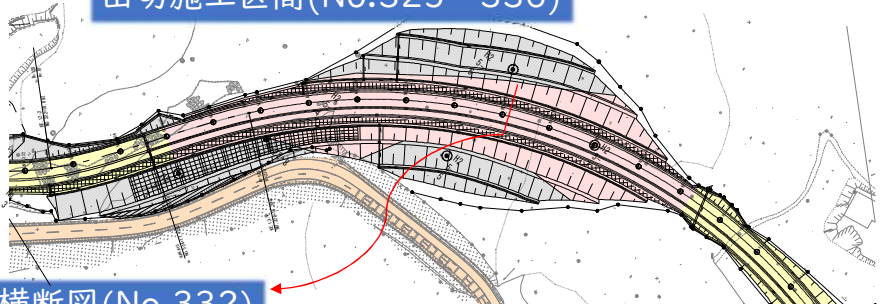
事業内容の見直し理由

(事業費の増額)

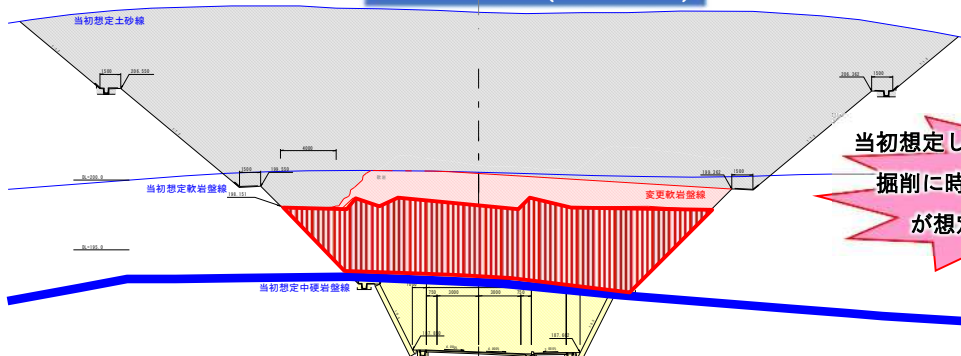
- 建設資材の高騰及び労務費上昇による工事費の増(+4.1億円)
- 山切区間において掘削土質の変更による工事費の増
(土砂・軟岩 → 中硬岩) (+3.5億円)



山切施工区間(No.325~336)



代表横断面図(No.332)



当初想定していた土砂・軟岩層において掘削に時間・費用を要する中硬岩の
が想定よりも大幅に増大!!

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業期間の見直し理由

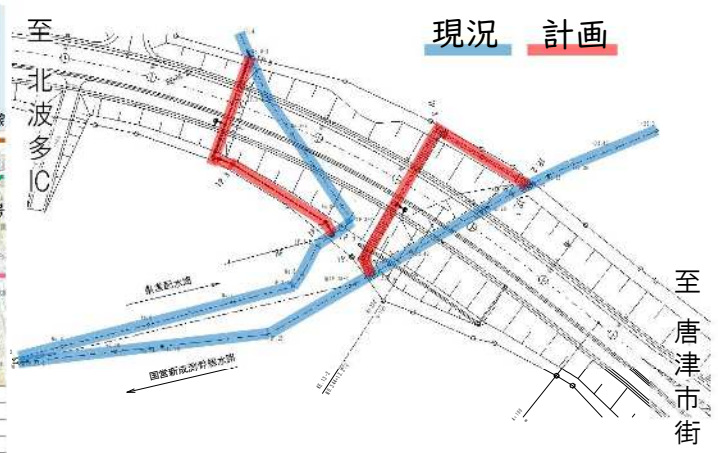
(事業期間の延伸)

- 前述、山切施工区間における地質条件の変更に伴う延伸
- 建設発生土の有効利用等を考慮した各年度の事業量及び工程調整を行ったことによる事業期間の延伸
- 農水管移設協議に不測の日数を要したことによる延伸

隣接する道路事業との位置関係



農水管移設箇所平面図



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

現地状況

中間付近から起点側を望む
〔現道箇所〕【写真①】



中間付近から終点側を望む
〔現道箇所〕【写真②】



起点付近から中間側を望む
〔整備済〕【写真③】



中間付近から起点側を望む
〔整備中〕【写真④】



事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 肥前呼子線と連続した、玄海町から西九州自動車道の北波多ICへのアクセス道路となる町道長倉藤平線が全線供用（R1.7）。また、県道唐津北波多線の一部が供用された。
- 西九州自動車道へのアクセス道路全体を早期に完成させ、西九州自動車道の効果を広く地域に波及させることで、企業誘致や地域振興の効果が期待されている。
- 唐津北波多線の終点付近で令和7年4月から高峰小学校が開校し、更なる交通量の増加が見込まれる。
- 大規模災害時の地域住民の安全・安心の向上を図る効果も期待されており、依然として事業の必要性は高い。



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の効果・必要性(費用対効果)

- 東松浦半島地域では将来予測交通量の減による便益の減少及び事業費増による費用の増加でB/Cは、下記のとおりとなっている。

事業全体	総便益 (B) 34 億円	
費用対効果 (B/C) =	総費用 (C) 47 億円	= 0.7
※社会的割引率4%		

【参考値】

事業全体	【社会的割引率2%】費用対効果 (B/C) = 1.1
	【社会的割引率1%】費用対効果 (B/C) = 1.4
残事業	費用対効果 (B/C) = 3.2
※社会的割引率4%	

<参考>

※基準年（令和6年度）における現在価値

○総便益 (B) = 走行時間短縮便益 + 走行経費縮小便益 + 交通事故減少便益

○総費用 (C) = 事業費 + 維持管理費 + 道路構造物の更新費

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の効果・必要性(その他効果)

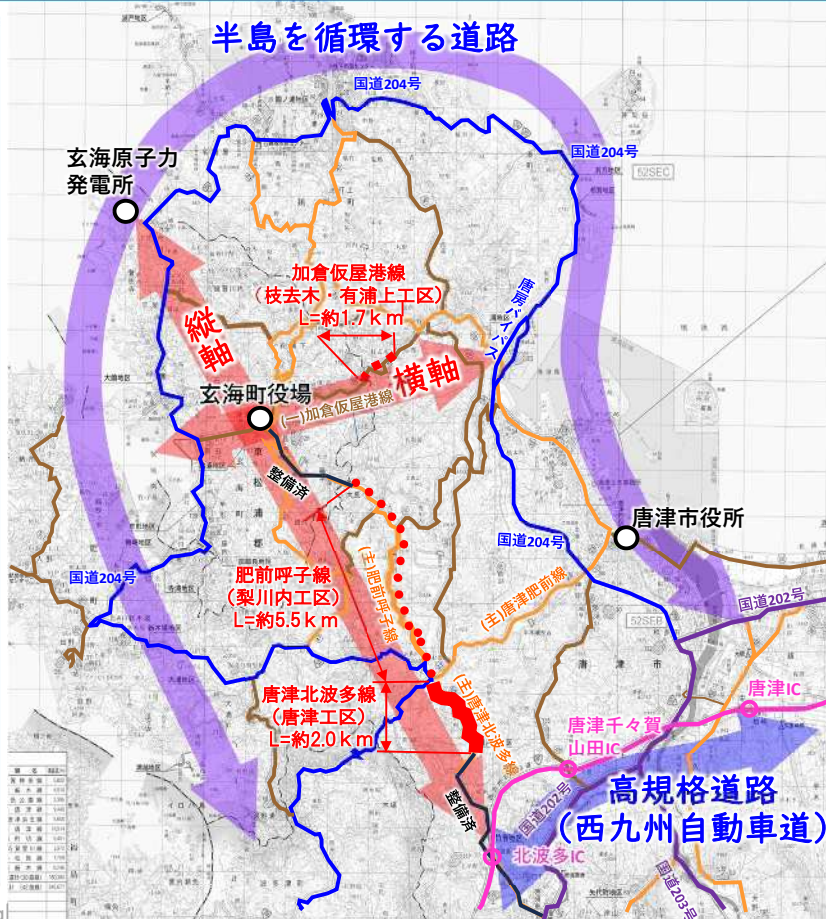
○防災機能の強化効果

- ・東松浦半島は、県内唯一の半島
- ・複雑な海岸線と起伏のある台地
- ・道路は狭隘部や急カーブが多い

半島内の道路は、地震など災害時における円滑な避難や復旧を行うために、道路ネットワークの強化が必要

道路整備の実施

- ・高規格道路や幹線道路へのアクセス向上
- ・玄海町役場から西九州自動車道の北波多ICまでの最短ルート
- ・避難・救援道路としての防災機能の強化



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved

事業の効果・必要性(その他効果)

○地域振興・観光振興効果

- ・農畜産業や漁業の就業人口が多い
- ・代表的な畑作地帯で農水産品の輸送量が多い。
- ・点在する観光資源が多い

道路整備の実施

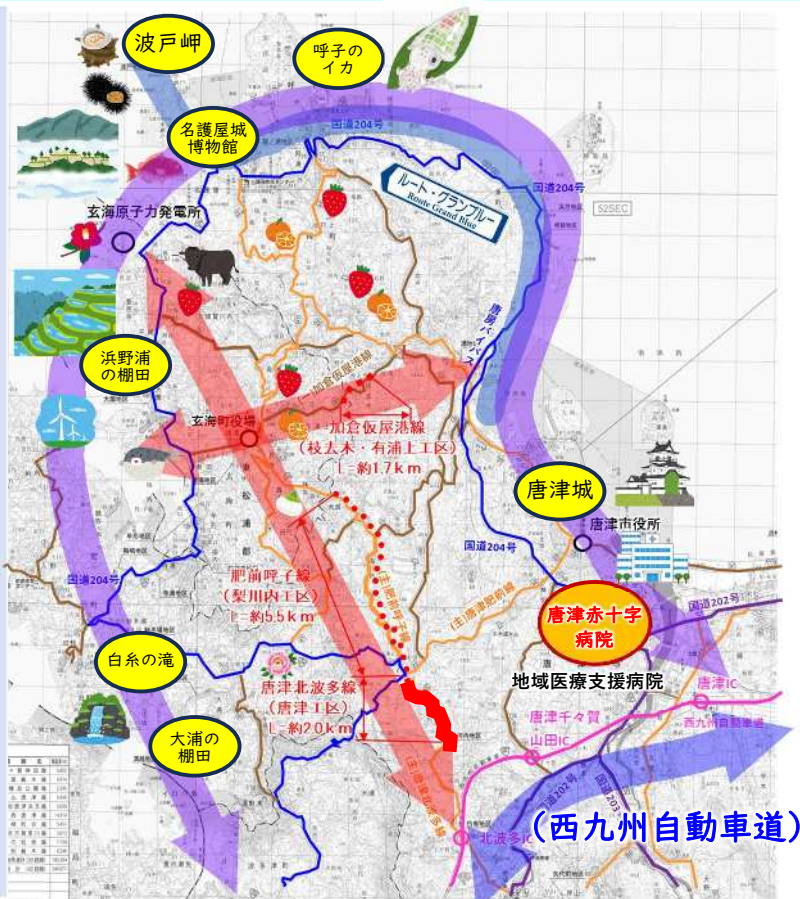
- ・高規格道路や幹線道路へのアクセス向上し、地域振興や観光振興の効果が期待できる

○地域医療等サービス向上効果

- ・道路の狭隘部、急カーブ等が多い
- ・道路が救急医療などの際に命をたなく役割を担っている

道路整備の実施

- ・医療機関等へのアクセスが向上し、公共サービスの向上効果が期待できる



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved

コスト縮減や代替案等の可能性

- 事業間で工事工程を調整し、建設発生土の流用を行うことにより残土処分費の縮減を図っている。
- 再生資材の利用促進を図っている。
- 地元利用状況を反映した取付道路計画の見直しによる工事規模の縮小

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

対応方針(事業課案)

- 西九州自動車道の整備が進められる中、半島内からのアクセス性向上となる、事業効果の発現が必要。
- 貨幣換算可能な効果を数値化した費用対効果（B／C）は、1.0 以下であるが、貨幣換算が困難な効果として災害時の避難や物資輸送の防災機能の強化、県北西部の農畜産物の輸送効率化、企業誘致などによる地域振興や観光振興などの効果も期待できる。



事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい

令和6年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

(課名：道路課)

事業名 (路河川等名)	道路整備交付金事業 主要地方道 前原富士線(上無津呂工区)
継続・中止理由	○道路の整備により「交通の円滑化」「安全性の向上」が図られる。 ○費用対効果は、1.0以上(B/C=1.1)が確保されている。 ○用地買収も完了しており、今後も円滑な事業遂行が確保されている。 ○本事業に係る前原富士線整備促進期成会が設立されており、地元の協力により支援体制も整い、今後の円滑な事業執行が可能である。 以上のことから、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。
B/Cの 算出方法	【便益】 ・走行時間短縮便益 = 12.5 億円 ・走行経費減少便益 = 2.9 億円 ・交通事故減少便益 = 1.3 億円 - 合計 = 16.7 億円 【費用】 ・事業費 = 15.1 億円 ・維持修繕費 = 0.8 億円 - 合計 = 15.9 億円 費用便益 B/C = 16.7 / 15.9 = 1.1 (社会的割引率 4%) 【参考値】 - 費用便益 B/C = 1.6 (社会的割引率 2%) - 費用便益 B/C = 1.9 (社会的割引率 1%)
備考	

令和 6 年度再評価対象箇所
(対象：令和 3 年度再評価実施箇所)

(佐賀県公共事業評価実施要領第2条(2)④に該当する事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済 情勢等の変化	費用対効果 の要因の変化	コスト削減や代替案 等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業観策)
	R3 再評価 時点	道路整備交付金 事業 主要地方道 前原富士線 (上無津呂工区) 事業主体：県 事業地：佐賀市富 士町上無津呂	主要地方道前原富士線は、 国道323号（佐賀市富士町 上無津呂）と福岡県糸島市 と結ぶ、主要地方道である。 当該区間は、幅員狭小で線 形も悪く、特に降雪時には 円滑な交通に支障を期して いるため、現道拡幅や線形 改良の整備により、交通 の円滑化や安全性の向上 を図るものである。	全体事業費：11.5億円 工期：H21～R8 工事内容 延長 L=750m 幅員 W=6.0(10.0)m 改良工 L=750m 舗装工 L=750m 測量試験 一式 用地補償 一式	R2末進捗率：約75% (事業費ベース) (年平均進捗率6%) 用地補償契約 100%	福岡県糸島市への観光客数が 年々増加し、観光スポットとし て知名度が上昇していること から、佐賀都市圏からのアクセ ス道路として、今後、交通量の 増加が見込まれる。 福岡県側においては、平成28 年度に一部区間（L=1.80km）が 完成し、続けて延長L=1.1kmの 区間を新たに事業化するなど、 整備が順調に進められている。	事業費増に伴う 費用の増加と工期 延伸による便 益の減少 B/C=1.2	(コスト削減) ・再生資源の利用 促進を図ってい る。 ・工事で発生する 残土を盛土等に流 用する。 (代替案の検討) ・特になし。	前回再評価時 より工期延長 及び事業費増 額のため再評 価	継続 (理由) ・当該箇所の事業の 必要性に変わりな い。 ・B/Cは1.0以上 (B/C=1.2)が確保さ れている。 ・用地買収も完了し ており、今後も円滑 な事業遂行が確保さ れている。 以上のことから、 当該事業の完成に向 けて、事業を継続す ることとしたい。
	R6 再評価 時点			全体事業費：12.9億円 工期：H21～R9 工事内容 延長 L=750m 幅員 W=6.0(10.0)m 改良工 L=750m 舗装工 L=750m 測量試験 一式 用地補償 一式	R5末進捗率：約81% (事業費ベース) (年平均進捗率5%) 用地補償契約 100%	・福岡県側においては、平成28 年度に一部区間（L=1.8km）が 完成し、続けて延長L=1.1kmの 区間を新たに事業化するなど、 整備が順調に進められている。 ・福岡県糸島市への観光客が 年々増加し、観光スポットとし て知名度が上昇していること から、佐賀都市圏からのアクセ ス道路として、今後、交通量の 増加が見込まれており、依然と して事業の必要性は高い。	B/C=1.1 (社会的割引率4%) 【参考値】 B/C=1.6 (社会的割引率2%) B/C=1.9 (社会的割引率1%)	・建設発生土を盛 土等に流用する。 ・事業間で工事工 程を調整し、建設 発生土の流用を行 うことにより残土 処分費の削減を図 っている。 ・再生資材の利用 促進を図ってい る。	前回再評価時 より工期延伸 及び事業費増 額のため再評 価	継続 (理由) ・道路の整備により 「交通の円滑化」「安 全性の向上」が図 られることから、事業 の必要性に変わりな い。 ・B/Cは1.0以上(1.1) が確保されている。 ・用地買収も完了し ており、今後も円滑 な事業遂行が確保さ れている。 ・本事業に係る前原 富士線整備促進期成 会が設立されてお り、地元の協力によ り支援体制も整い、 今後の円滑な事業執 行が可能である。 以上のことから、当 該事業の完成に向 けて、事業を継続す ることとしたい。
	理由等				(事業費) ・建設発生土の他工事へ の有効活用（運搬距離延 伸）に伴う工事費の増。 ・地下水位が高く、湧水 も多く発生していること から、排水対策に伴う 工事費の増。 (工期) ・地下水位が高く、湧水 も多く発生していること から、排水対策工事に よる工期の延伸。					

進捗率

年度	R6再評価 (%)	R3再評価 (%)
H21	1	2
H22	2	3
H23	4	5
H24	6	7
H25	10	12
H26	18	22
H27	22	25
H28	32	35
H29	35	40
H30	48	55
R1	58	65
R2	65	75
R3	67	75
R4	68	78
R5	82	90
R6	88	95
R7	95	98
R8	98	99
R9	100	100

令和6年度 再評価委員会

道路整備交付金事業

主要地方道 まえ ばる ふ じ 前原富士線 かみ お つ ろ（上無津呂工区）

さ が ふ じ かみ お つ ろ
佐賀市富士町上無津呂地内

再評価理由

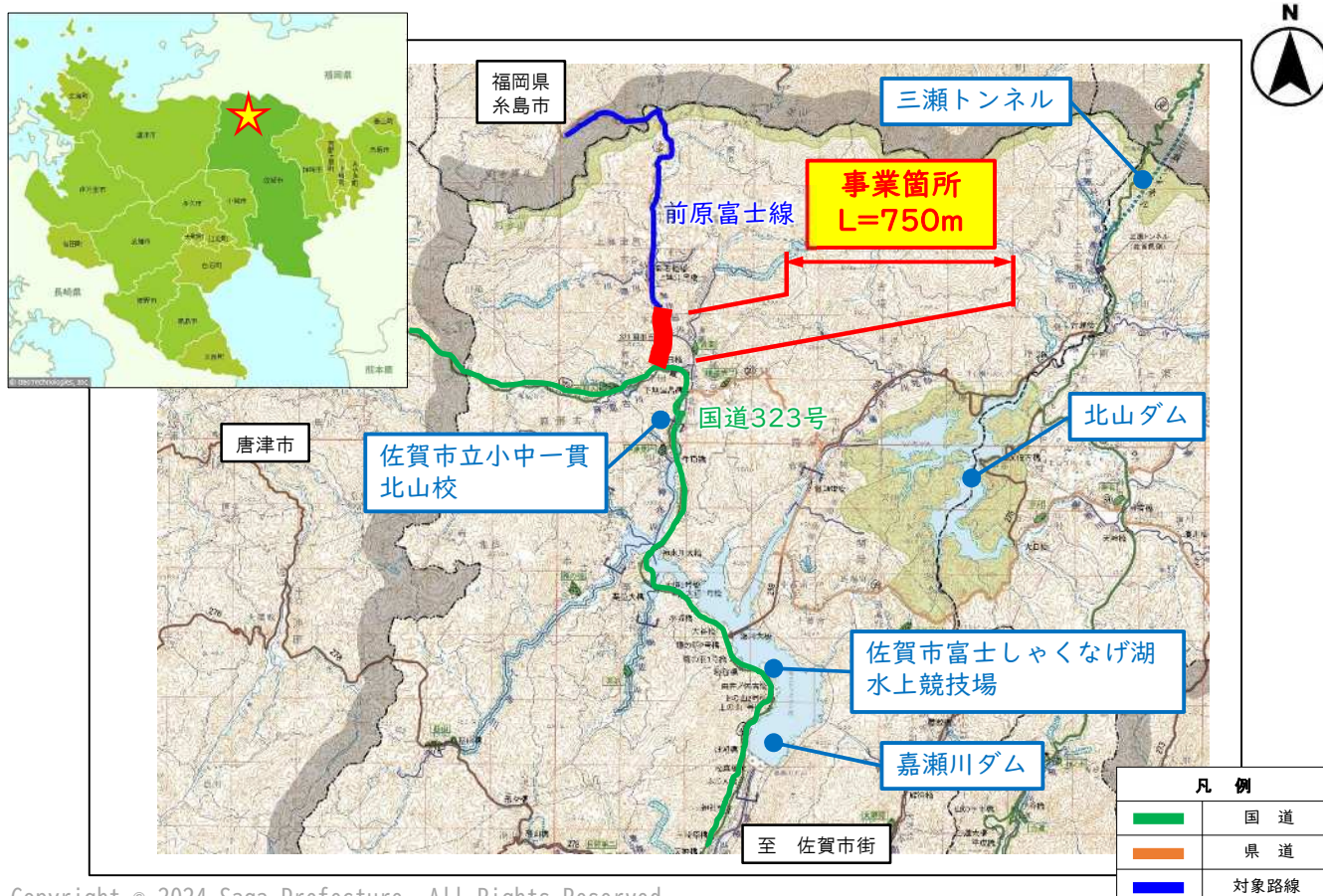
再評価実施後5年が経過する前に工期延伸及び
事業費を増額するため

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

みらい
つながる
Tゾーン

佐賀県 県土整備部 道路課

位置図



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業目的



現道拡幅・線形改良により

交通の円滑化

安全性の向上

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

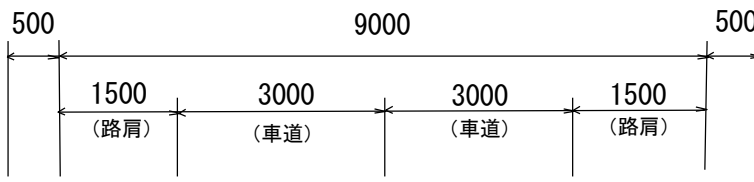
事業概要

	前回再評価（令和3年度）	今回
全体事業費	11.5億円	12.9億円
工期	平成21年度～令和8年度	平成21年度～令和9年度
延長	750m	750m
幅員	6.0（10.0）m	6.0（10.0）m
事業内容	・改良工 L=750m ・舗装工 L=750m ・測量試験 一式 ・用地補償 一式	・改良工 L=750m ・舗装工 L=750m ・測量試験 一式 ・用地補償 一式
費用対効果	1.2	1.1

現況

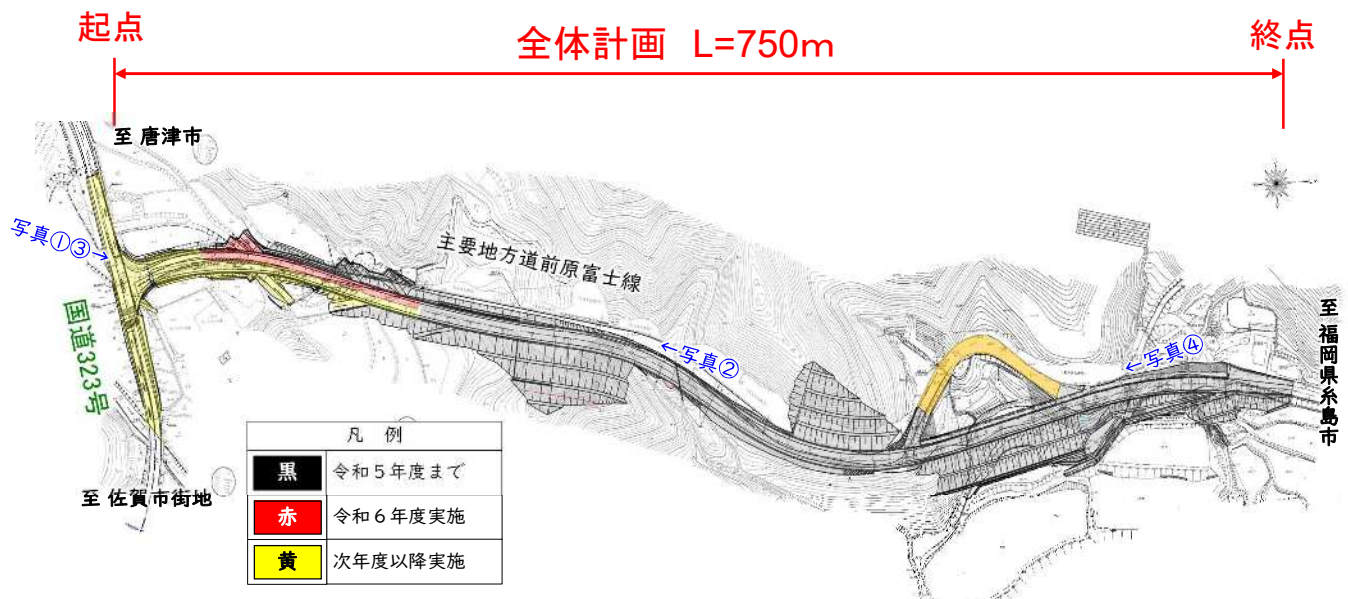


計画



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の進捗状況



	令和5年度まで	令和6年度	令和7年度以降
事業費（億円）	10.5	0.6	1.8
進捗率（%）	81.1	85.8	100.0
用地進捗率（%）※	100.0	100.0	100.0

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

※面積ベース

事業内容の見直し理由

(事業費の増額)

○建設発生土の他工事への有効活用（運搬距離延伸）に伴う工事費の増。
（+0.5億円）

（近傍工事への流用を予定していたが、受入時期の調整が困難となり別工事へ流用）

○地下水位が高く、湧水も多く発生していることから、排水対策に伴う工事費の増。（+0.4億円）

(工期の延伸)

○地下水位が高く、湧水も多く発生していることから、排水対策工事による工期の延伸。



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

現 地 状 況

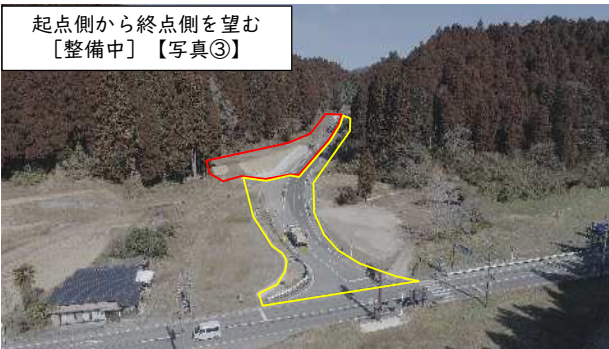
起点側から終点側を望む
〔整備前〕【写真①】



中間付近から起点側を望む
〔整備前〕【写真②】



起点側から終点側を望む
〔整備中〕【写真③】



中間付近から起点側を望む
〔整備済〕【写真④】



Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業を巡る社会経済情勢等の変化

○福岡県側においては、平成28年度に一部区間（ $L=1.8\text{ km}$ ）が完成し、続けて延長 $L=1.1\text{ km}$ の区間を新たに事業化するなど、整備が順調に進められている。

○福岡県系島市への観光客が年々増加し、観光スポットとして知名度が上昇していることから、佐賀都市圏からのアクセス道路として、今後、交通量の増加が見込まれており、依然として事業の必要性は高い。

事業の効果・必要性(費用対効果)

○B/Cは1.0を上回っている。

$$\text{費用対効果 (B/C)} = \frac{\text{総便益 (B)} \quad 16.7 \text{ 億円}}{\text{総費用 (C)} \quad 15.9 \text{ 億円}} = 1.1$$

※社会的割引率4%

【参考値】

$$\begin{aligned} \text{【社会的割引率2\%】費用対効果 (B/C)} &= 1.6 \\ \text{【社会的割引率1\%】費用対効果 (B/C)} &= 1.9 \end{aligned}$$

※基準年（令和6年度）における現在価値

<参考>

○総便益 (B) = 走行時間短縮便益 + 走行経費縮小便益 + 交通事故減少便益

○総費用 (C) = 事業費 + 維持管理費 + 道路構造物の更新費

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業の効果・必要性(その他効果)

○歩道設置による安全性向上及び道路拡幅による走行快適性向上が図られる。

○積雪による通行止めの解消が見込まれる。

○佐賀都市圏から福岡県系島市等の観光スポットへの交通量増加が期待できる。

コスト縮減や代替案等の可能性

- 建設発生土を盛土等に流用する。
- 事業間で工事工程を調整し、建設発生土の流用を行うことにより残土処分費の縮減を図っている。
- 再生資材の利用促進を図っている。

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

対応方針(事業課案)

- 道路の整備により「交通の円滑化」「安全性の向上」が図られることから、事業の必要性に変わりない。
- 費用対効果についても、 $B/C=1.0$ 以上(1.1)が確保されている。
- 事業の進捗率は、事業費ベースで約81%[約10.5億円/約12.9億円]
(令和5年度末)であり、そのうち用地進捗率は約100%となっている。
- 用地買収が完了していることに加え、本事業に係る前原富士線整備促進期成会が設立されており、地元の協力により支援体制も整い、今後の円滑な事業執行が可能である。



事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.